佳作

ぼくの自まんのお父さん

茨城県　日立市立助川小学校四年　青木　一真

ぼくのお父さんはとてもやさしくてきびしい人です。おこらせてしまうととてもこわくて近づきたくないと思ってしまうこもあるけど、いつもはぼくたちのことを一番に考えてくれる家族思いでとてもやさしい人です。

お父さんは今、たん身ふ任をしているのではなれてくらしています。ぼくが二年生になった時からなので、今年で三年目になります。会えるのは二か月に一回くらいなので、いっしょに遊んだり、いっしょにご飯を食べることができる時間はとても大切です。お父さんはぼくたちが遊びに行くと必ず「なにがしたい？」や「どこに行きたい？」と聞いてくれます。家族で過ごすためにいろいろ考えてくれます。ぼくはとにかくお父さんといっしょに遊びたいので「公園」とリクエストします。近くには広い公園があってサッカーやキャッチボールもできていっしょに走ることもできます。夏には水遊びもできるのでぼくにとっては最高に楽しい場所です。遊ぶ時は朝から夕方までたくさん遊んでくれます。

そんなお父さんは、いつもいそがしそうで夜おそくまで仕事をしています。仕事の話はぼくにはむずかしくて分からないことが多いけど、いつもぼくたちと遊んでくれる時のお父さんの顔とはちがってきびしくてこわい顔をしています。

でも、きびしくて少しこわい顔は時どきぼくにもします。なぜかと言うと、ぼくは無理だ、できないと思うとすぐにあきらめてと中でやめてしまうところがあるからです。その時は、こわい顔で、

「すぐににげるな。」

と言います。ぼくは、はなれてくらしてるのにぼくの気持ちなんて分かるはずない。勉強もできるし何でもできるお父さんには分かるはずがないと思っていました。

でも、お母さんが、

「お父さんはたくさんたくさん努力をして、くやしい思いをしてきたから今があるんだよ。」

と教えてくれました。ぼくは、くやしい顔をしているお父さんを知らないのでびっくりしました。くやしい思いをしてもがんばることをあきらめない強いお父さんはカッコイイです。大人になったらお父さんみたいになりたいと思うけど、今のぼくはすぐにあきらめてしまうので自信はありません。でも、ぼくのことを考えて注意してくれたり、はげましてくれるお父さんの気持ちにこたえられるようにしたいと思います。